

おしえて！



# わん🐾にゃん通信



2016/03/03 No.6

やわらかな日差しが心地よく、過ごしやすくなってまいりました。  
今回は、わんちゃんやねこちゃんの身体の中の寄生虫についてお話ししたいと思います。

寄生虫と一言と言っても、とても沢山の種類があります。  
ノミやマダニなどの体の外に寄生するものを外部寄生虫、身体の中(血管や腸管内)に寄生するものを内部寄生虫と言います。内部寄生虫の中でも多くの種類はあります。  
主なものに、回虫、鉤虫、鞭虫、瓜実条虫、コクシジウムなどがあります。  
その中でもよく見られるものをいくつか紹介します。

## ○回虫(犬回虫、猫回虫)…線虫

犬には犬回虫、猫には猫回虫がそれぞれ小腸に寄生します。回虫卵は、環境への抵抗力がとても強いので砂や土の中で感染の機会を待っています。卵は排泄されてすぐは感染力を持ちませんが、14日ほど経つと感染力を持ちます。回虫の成虫は1日に10万個近く卵を産みます。

感染ルートは主に経口感染ですが、母親が感染していると胎盤や母乳を通して子供が感染します。まれに人にも寄生し、幼虫のまま全身を移動し障害を引き起こします。

成犬、成猫は感染しても症状が出ない「不顕性感染」がほとんどです。しかし食欲不振や腹痛、咳、貧血、発育不良、回虫を含む下痢や嘔吐を起こす事もあります。また、腹部が回虫で太鼓のようにパンパンに膨れたり、食べ物ではない物を食べたがったり(異嗜)します。

駆虫方法としては、駆虫薬を飲ませることです。  
また、便はすぐに片付けることも大切です。



## ○瓜実条虫…条虫

イヌ科、ネコ科の動物の小腸に寄生します。人にも寄生します。  
瓜実条虫は卵を産まず、卵を含む身体の一部(片節)を腸管内で切り離して排泄します。

片節は白～淡紅色で瓜の実のような形をしており、よく動き回ります。肛門周りや便に付着している事もあります。乾燥するとゴマ粒のように見えます。

感染ルートは条虫を媒介するノミをグルーミング等で体内に取り込んでしまうことです。

「不顕性感染」が多いですが、肛門周りについて片節が気になってしきりにお尻を地面にこすりつけたり、舐めたりします。大量に寄生されると下痢や体重減少を起こす事もあります。

薬で駆虫できますが、普段生活している場所等にノミがいては再発してしまうのでノミの駆除も一緒に行うことが大切です。



### ○コクシジウム…原虫

イヌ、ネコの小腸に寄生します。

コクシジウムはオーシストという卵のような物を排出します。これを、口から食べ物などと一緒に摂取してしまうことで感染します。

成犬や成猫の場合、不顕性感染がほとんどです。しかし、子犬・子猫で免疫力が落ちていたり、多数寄生していたりした場合水溶性の下痢や粘液、血液が混ざった便をする事もあります。脱水、嘔吐、食欲不振なども引き起こします。他の寄生虫に寄生され下痢がひどくなることもあります。オーシストは排泄されてすぐは感染力を持ちません。便をすぐに片づければ感染を広めることはありません。



内部寄生虫は、便の中に感染源となる虫卵などを排泄するので、便をしたら放置せずすぐに片づけることが大切です。便に触れた後はきちんと手を洗うことも重要です。

また、糞便検査をすることで感染の有無が分かります。糞便検査は、小指の第一関節ほどの新鮮な便があれば行うことができます。何も症状が出ていなくても、定期的に糞便検査をすることで寄生のリスクを下げることができます。

1回の駆虫では確実に駆虫できたかわからないので、糞便検査で確認が大切です。

3月から狂犬病予防接種が始まります。

